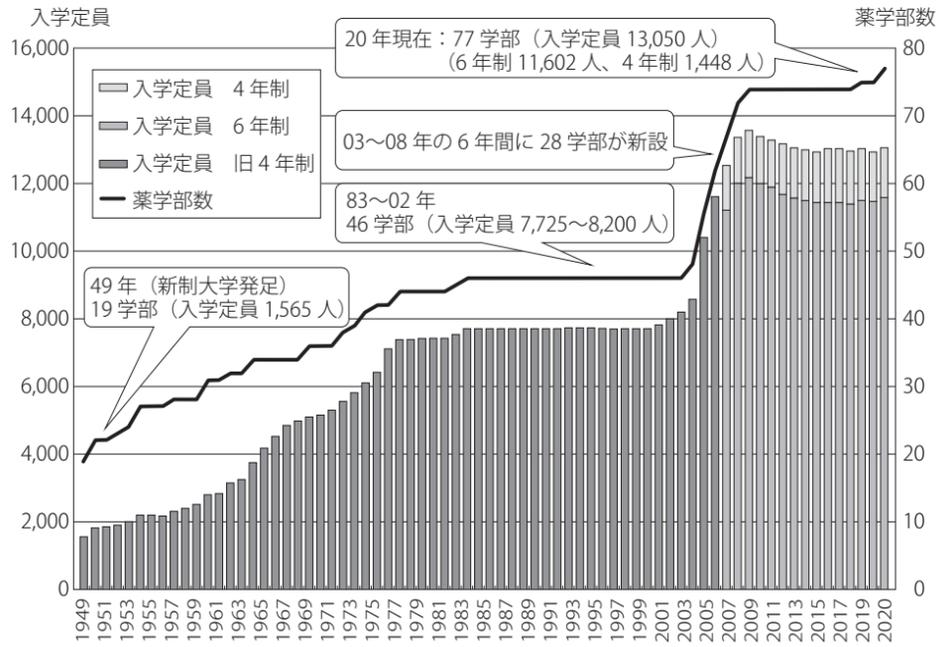


図 薬学部(学科)数および入学定員の推移



(厚生労働省資料より)

平成の時代は医薬分業の進展の時代(2) 薬剤師は供給過剰? 既述の通り、医薬分業は飛躍的な発展を遂げました。2014年院外処方箋発行枚数は8億枚を超え、18年の届け出薬局薬剤師数は18万人を超え、すでに達しています。明らかに薬剤師需要は増大したわけですが、ここ30年間、平成時代の需給推計はいずれも薬剤師の供給過剰を示唆するものでした。



藤井もとゆきの

ひとり言

薬剤師の需給推計(6)

厚生労働省は「厚生労働省として、薬剤師国家試験の受験資格要件を、6年間の薬剤師教育を修了した者とする方向で考えており、」と記述しました。また、同年9月27日発表された薬剤師問題検討会の報告書「薬剤師需給予測について」では、将来にわたり薬剤師が不足する事態は考えられず、供給と需要の差が拡大するとの推計しました。そして大幅な需給のアンバランス解消のためには「新規参入薬剤師を」平成19年度以降段階的に減少し、最終的には20%程度減少すること」を求めました。「この新規参入抑制策が、薬剤師免許取得したにも関わらず、その専門性を活用できないという状況を防ぎ、薬剤師の適正数を保ちつつ薬剤師全体の資質の向上を図り、患者に高い質の高い安心・安全な医療を提供するために重要であるとの結論を得た」とあります。

学教育6年制」は、04年の第159回国会で関係法律が成立し、06年4月1日施行と決められました。一部有識者からは、6年制移行により薬学入学者志願者は減少し、結果として薬剤師供給数が低下すると指摘されてきました。事実、入学者志願者は04年の15万4,255人をピークに06年度約10・1万人まで急落、減少に転じましたが、入学定員については国として一定の方向性が示されることはなく、新規参入薬剤師数も移行期の2年間(10、11年)を除き、大きな変化もなく推移します。6年制移行後行われた需給推計はいずれも供給数が必要数を上回る。つまり将来の薬剤師余剰を示しており、入学定員の抑制を求めるものとなっ

(続く)

東海大学、豊橋技術科学大学、中部大学、デンソーは、共同で新型コロナウイルス検査機器の開発に取り組んでいるが、このほど、新しい仕組みのバイオセンサーを開発し、新型コロナウイルスの検出に成功したと発表した。今後、感染症の早期診断に貢献することを目指し、実用化に向けた開発を加速していくこととしている。同開発は、日本医療研究開発機構(A.M.E.D.)ウイルス等感染症対策技術開発事業「半導体センサ技術を活用した革新的新型コロナウイルス検査機器の開発」の支援を受けて実施されている。

感染症の拡大と医療の逼迫を防ぐには、感染症の早期診断、早期隔離によるウイルス拡散の未然防止が重要である。現在、新型コロナウイルスの診断には、PCR検査や抗原検査などが利用されている一方、それらの検査では、検出されたウイルスの感染力の有無を示す「ウイルスの感染力」が評価できないことが課題となっている。また、PCR検査はウイルスの検出感度は高いものの前処理など医療従事者への負担が大きく、抗原検査は簡便な検査である一方で検出精度にはらつきがあるなどの課題もあり、「ウイルスの感染力」を評価する高感度かつ簡便な検出方法の開発が求められている。東海大、豊橋技術科学大、中部大、デンソーが共同開発を進めているバイオセンサーは、「ウイルスの感染力」を高感度かつ迅速に定量検出する臨床検査機器としての活用を目指したものである。PCR検査や抗原検査とは異なり、感染のきっかけとなるウイルス表面のスパイク蛋白質を、半導体センサーとアプタマー(人工的に合成した核酸分子/特定の物質に結合して検出することが可能である。今回、世界初となる半

新バイオセンサー開発 コロナウイルス検出に成功 東海大など

導体センサーとアプタマーでスパイク蛋白質を検出する技術、手法を用いて、新型コロナウイルスを高感度に検出することに成功した。半導体センサーは、ウイルス量を電気信号で定量的に計測することができるため、高い精度での感染状況の把握や、治療の有効性の確認などへの活用が期待できる。また、アプタマーはサイズが小さく、様々な蛋白質と選択的に結合する性質を持つと共に、設計が容易であり短期間での量産も可能であることから、未知のウイルスの検出に活用することも可能だといふ。3大学とデンソーは、同バイオセンサーが、新型コロナウイルスの感染力が把握できることに加えて、PCR検査と同レベルのウイルス検出感度を持ち、抗原検査と同レベルの簡便な検査となることを目指し、さらに基礎技術を固めて実用化に向けた開発を加速するとしている。

漢方処方集
運用の実際
三瀨忠道・編著

判型172mm×102mm/368頁
定価 4,950円
(本体 4,500円+税10%)

漢方処方集 運用の実際

[編著] 三瀨 忠道 (福島県立医科大学 会津医療センター漢方医学講座 教授)

【生薬診療や調剤の実践マニュアルとして実務に役立つ情報をまとめた処方集】

- 方剤一覧には、著者の臨床経験に照らして参考になるとされるポイント、使用目標、有効であった疾患・症候などを記載。
- 服用方法(時間、量、合方、幼少児対応など)や生薬処方調製方法をわかりやすく解説。
- 「お役立ち情報」として副作用や薬剤情報説明用の参考資料(一覧表)、患者接客時の注意、臨床現場からの一言(ワンポイントアドバイス)も記載。

目次

- 【序】本書作成の目的一序に代えて
- 【解説】本処方集成立の過程について
- 【方剤】
- 【服用方法】
- 【生薬処方の調製】
- 【お役立ち情報】
- 【方剤索引】
- 【健康調査表】